

# 二本松市里山再生モデル事業の概要

## モデル事業の目的

- 遊歩道の利用者や地域住民の安心・安全に向けた環境づくり
- 事業成果について原子力災害を受けた里山の再生に寄与

## モデル地区概要

- モデル地区：観音丘陵遊歩道周辺（二本松市竹田一丁目地内ほか）
- 区域面積：約54haうち森林約23ha（民有林（私有林））

## 事業の内容

### 除染（H30～R1年度）

- 遊歩道中央部と法尻の約5,900m<sup>2</sup>について表土削り取りと覆土・砕石敷き、またはウッドチップ敷きを行いました。
- 遊歩道脇の法面については堆積有機物除去を行いました。



除染実施前



除染実施後

### 森林整備（H29～R1年度）

- スギ人工林等の間伐（3.87ha、間伐率10%）、ケヤキの更新伐（0.27ha、伐採率58%）、丸太筋工の設置（555.7m）などを実施しました。



実施前

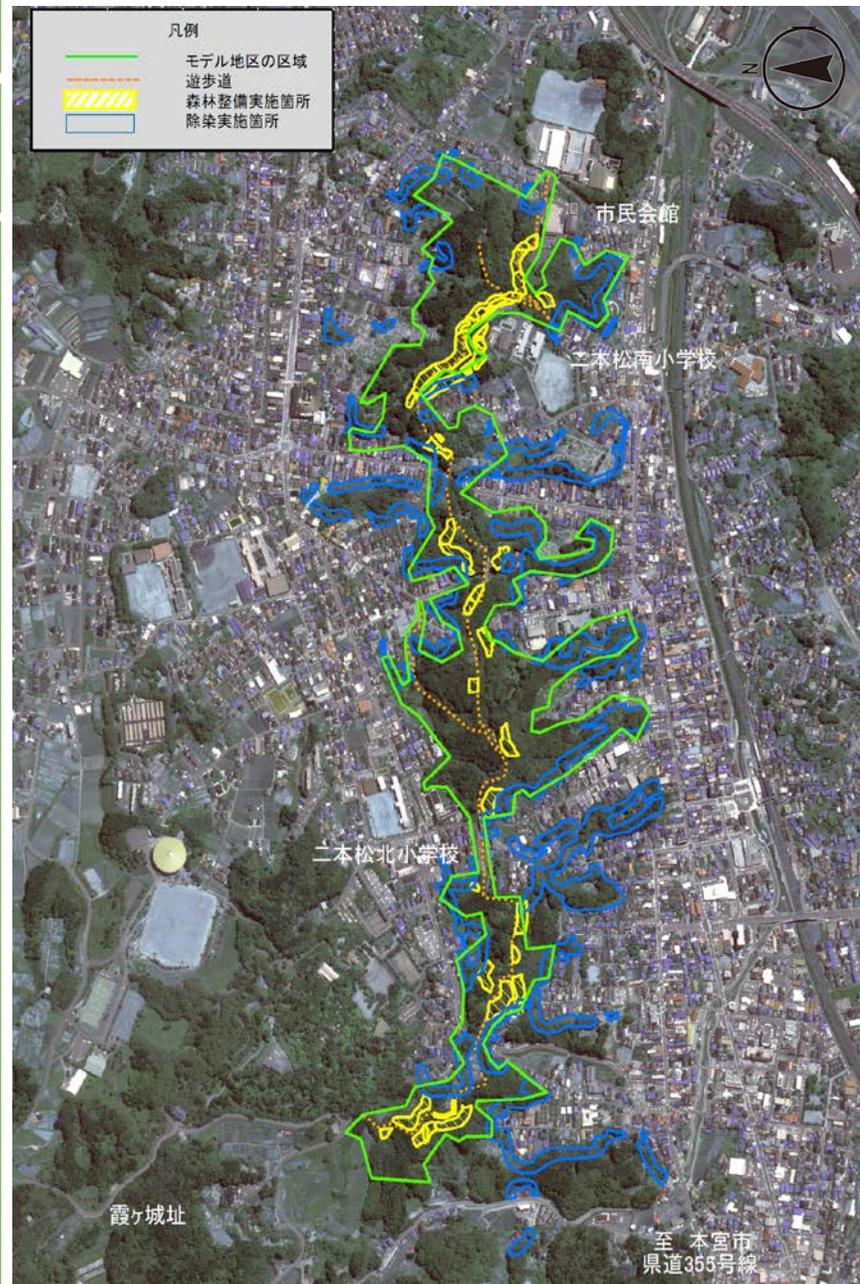


実施後

### 線量測定（H29～R1年度）

- H29からR1にかけてモデル地区内の空間線量率を毎年測定しました。（メッシュ測定：63（メッシュ数）、遊歩道等の歩行サーベイ：約3,670m 等）
- 空間線量率の測定にあわせて個人被ばく線量を測定しました。

## <モデル地区の概況図>

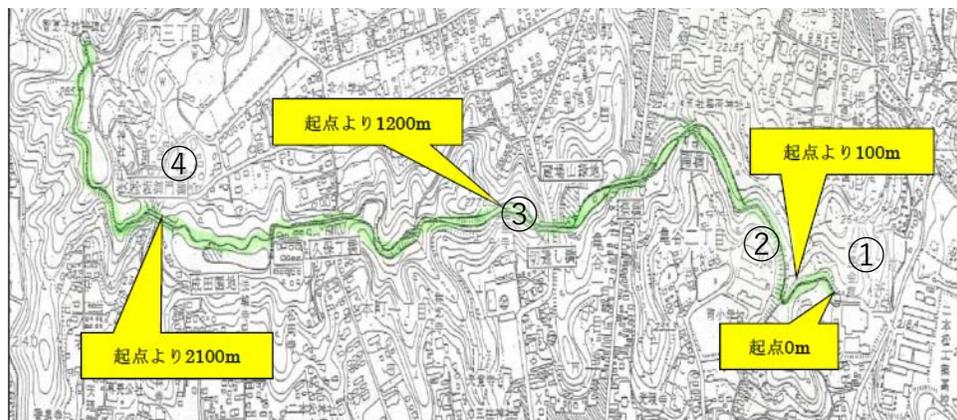


# 二本松市モデル事業の結果

## 除染の結果

○空間線量率（高さ1m）の平均値（単位：μSv/h）

	除染前	除染後	低減率 (物理学的減衰率)
	H28年9月	R2年1月	
①～④平均	0.39	0.18	54% (26%)



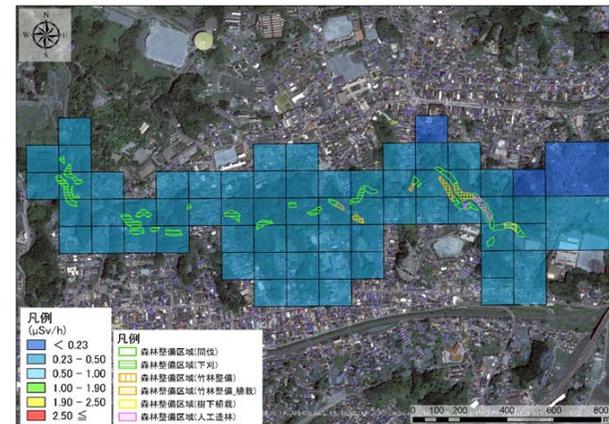
## 森林整備の結果

- 間伐等の森林整備により地表面に光が届くようになり、植物の繁茂が見込まれ、表土流出の抑制効果や、根が土壌を保持する力が向上することにより、水源涵養機能、山地災害防止機能等の発揮が期待されます。
- 丸太伏工の設置によって作業道法面の安定が図られ、放射性物質を含む土壌の流出を抑制する効果が期待されます。
- 間伐等により整備された林内は、散策路周辺の景観が整備されたことに伴い、安全・安心に散策できる空間に変化し、多くの散策者が訪れています。
- 今回の森林整備によって延べ3,706人日の雇用が生まれ、林業活動の継続が図られました。

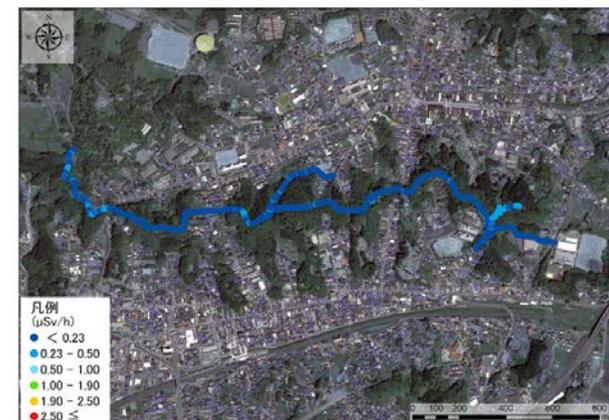
## 線量測定の結果

※空間線量率は実測値を基にR1年8月1日を基準日として算出

【メッシュ測定】  
地区平均(地上1m)は  
0.32 μSv/h、最大値は  
0.45 μSv/h、最小値は  
0.13 μSv/hでした。



【歩行サーベイ】  
平均は0.17 μSv/h、  
最大値は0.37 μSv/h、  
最小値は0.07 μSv/h  
でした。



## 【個人被ばく線量】

市役所へのヒアリングを行い、想定される利用形態（滞在時間124分）を設定し、個人被ばく線量を測定しました。その結果、1回の利用に伴う個人被ばく線量は、0.0003mSv (0.3μSv) でした。

※胸部X線検査1回あたりの被ばく線量は0.06mSv (60μSv)

## モデル事業の効果

- 除染によって線量が低くなったことなどにより、遊歩道の利用者や地域住民の安心・安全に向けた環境づくりに寄与したと考えられます。
- 除染と森林整備を一体的に実施することにより、快適な森林空間を創出し里山の再生に寄与したと考えられます。